



森下さち子ニュース

【2010年12月号】和歌山市鳴神 1145-6 Tel. 474-6556
市議員団ホームページ <http://jcpwkym.sakura.ne.jp/> Tel. 435-1113

「12月議会報告」

議会での一般質問に

精いっぱいとりくみました



12月議会は人事院勧告に関わる条例改正を先議するため、11月26日から始まりました。一般質問、各常任委員会の審議を経て12月17日に閉会しました。

ところ、その年度末の退職者の数が把握し辛いため、その人数が分かってから明らかにするという答えでした。

昨年12月に教育委員会は次年度の委託校が3校であることを明らかにし、該当する小学校の保護者から、唐突であり議論がまったく保障されていないと怒りの声が上がりました。私は、学校給食そのものを考える場を保障するためにも民間委託については早く全体計画を明らかにするよう求め

「一般質問」12/6登壇

テーマは学校給食

小学校給食の民間委託（調理・洗浄）は22校に対して実施するという計画のうち、現在11校まで予算化されています。残りの11校をどうするのかと質した

昨年12月に教育委員会は次年度の委託校が3校であることを明らかにし、該当する小学校の保護者から、唐突であり議論がまったく保障されていないと怒りの声が上がりました。私は、学校給食そのものを考える場を保障するためにも民間委託については早く全体計画を明らかにするよう求め

安全でおいしい給食を

最優先に！

教育委員会は財政難を理由に経費節減や退職者の数を優先していますが、最も大切なことは食育の推進という観点からも、子どもたちに『安全でおいしい給食』を提供することです。そのためにも、もう一度給食の意味を考え、議論できる場を保障することが求められるのではないのでしょうか。

中学校給食はまず

「中学校給食協議会(仮称)」

を設置し検討

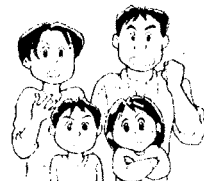
先の9月議会の常任委員会では、共同調理場に近い

中学校と親子方式で配送できる規模の小さい中学校という考え方で、来年度中に試行的に実施すると答えていました。

協力も得て、中学生の成長や発達段階に応じたより良いものを作り上げるという姿勢で臨むべきだと意見を述べました。

ところが今回の一般質問では、全体計画をまず検討する、試行的に実施するかどうかについても「中学校給食協議会(仮称)」で協議するという答弁に変わりました。いずれにしても、初めての中学校給食への取り組みです。貧困が拡大し給食の持つ意味はさらに大きくなってきています。一日でも早く実施することが求められている昨今ですが、だからこそ学校だけでなく保護者や地域のみなさんの

学校給食を
経費節減の対象に
するのはおかしいね



《小倉小学校》

保護者の協力で

月1回の試食会実施



昨年12月に唐突な発表だと計画の白紙撤回を求めた小倉小学校PTAは、民間委託が実施された後もよりよい給食をみんなの手でというスタンスのもと、月1回の試食会を実施しています。

試食会を実施することにより、調理員、栄養士、教職員、保護者の4者で適度の緊張感を保ちながら「おいしい給食」を守り続けています。

こんにちは！ 藤井健太郎です

(ふじいけんたろう)



知事選挙で仁坂吉伸氏が再選され、12月県議会で所信表明が行われました。真っ先にかかげた政策が「働く場の拡大」でした。県経済活性化と人口減少をくい止めるためにも、県民の生活を支える働く場が必要と訴えたのです。

これまで、仁坂氏は県外からの企業誘致と県内の優良企業、力のある企業を応援する経済政策をとってきました。しかし、その結果は中小零細の事業所は減少を続け、県民の雇用の場も失われていきました。

私たちは、知事選挙で、日本一多いと言われている小規模事業所を応援してこそ、県民の雇用の場を守ることができると訴えてきました。仁坂知事は、雇用を拡大するために中小企業、農林水産業、観光業など県経済を支えている産業で「日本一」といわれる振興策を講じたいと表明したのです。県経済を支えている小規模事業所に光があたることを期待したいものです。

これで、県政は「健康長寿日本一」「子育て環境ナンバー1」「経済振興日本一」と3つのナンバー1をめざすこととなりますが、新年度の予算と施策づくりに反映させていくためにも大いに要求運動を広げていきましょう。

県会議員 ふじい健太郎

子どもの医療費 中学校卒業まで無料に！

新日本婦人の会のみなさんが署名活動を行い、要望書を市長と健康福祉局長宛てに提出しました。そのときに5000筆余の署名を合わせて提出し、12月13日さらに900筆余の署名を追加提出しました。



市長は市議団が新年度の予算要求について懇談した際、「子どもの医療費については子育て支援の一環として重要な施策だと考えている。」と前向きな姿勢を示しました。

現在和歌山市では小学校卒業までの通院が無料となっています。同じ県でも7町村では医療費の助成拡大が一步前進し、中学校卒業までが無料です。自治体間の格差を生まないためにも、本来は国の制度として保障されるべきですが、未だ実現していません。

子育てしやすい街、和歌山市を目指して行政と市民がともに知恵を出し合えるよう、引き続き取り組みたいと思います。

《新日本婦人の会》

子どもたちのすこやかな成長と平和・女性の地位向上のために活動している国連NGOの女性団体。乳幼児医療費無料化の運動は40年にも及び。

<http://www.shinfujin.gr.jp/>



市役所控え室
435・113
午後1時～4時
花山森下事務所
475・812

事前のお電話を待ちましています。

介護・医療・子育てなどお気軽にご相談ください。

生活相談



おつきく

なあれ

森下さんちの
元昔(ん
成長日記

元哉は作ってもらったものを、ただ食べるだけの身分ですが、妹の風優の弁当作りは、また続いています。寒くなってきたので夏の頃よりは、起きるのに苦労しています。続けているためか手際も良くなってきました。食は毎日のことなので、献立や手間など大変だと思ふこともしばしばです。しかし、その分、食べた物も作った経験も身体や心に貯えられます。あだや疎かにはできないと娘を見ていて、改めて思う今日この頃です。

一方、給食だけで命をつないでいる子がいる。あるいは、給食のない中学校では、昼食を常に抜いている子がいるなど、胸の痛くなるような例が報告されています。今回、一般質問で「学校給食」について取り上げましたが、子どもたちの置かれている深刻な状況であるからこそ、中学校でも一日も早く実施して欲しいと心から思います。どの子にも豊かな教育を保障する一環として、「安心・安全でおいしい給食」をとり続きかんばります。